

3 財別鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き

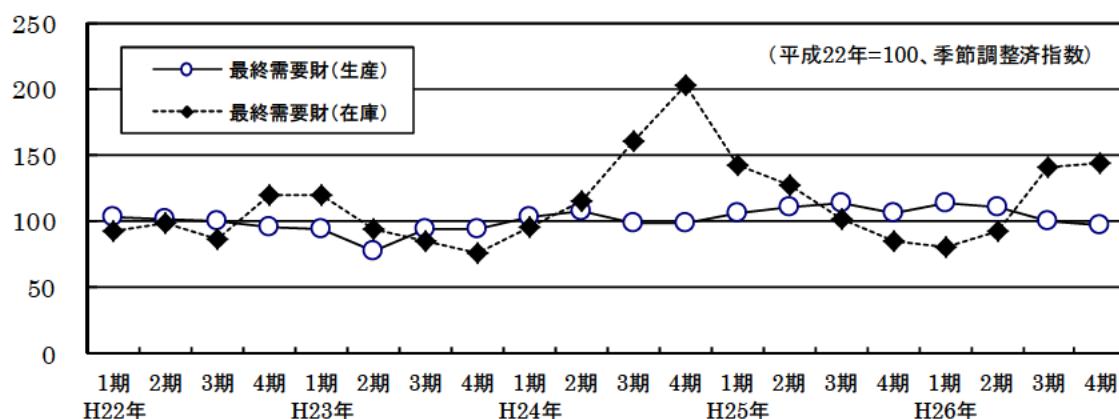
1 最終需要財

平成 26 年の最終需要財の生産指数は 105.6 で、対前年比 3.5%低下しました（表 5）。

四半期別にみると、1 期 113.6（対前期比 7.1%増）、2 期 111.2（同 2.1%減）、3 期 100.8（同 9.4%減）、4 期 97.3（同 3.5%減）となりました（表 9）。

また、在庫指数の年平均は 116.8 で、対前年比 2.6%上昇しました（表 7）。

四半期別にみると、1 期 80.1（対前期比 6.4%減）、2 期 93.2（同 16.4%増）、3 期 141.1（同 51.4%増）、4 期 144.6（同 2.5%増）となりました（表 11）。



1-1 投資財

平成 26 年の投資財の生産指数は 110.7 で、対前年比 6.1%低下しました（表 5）。

また、在庫指数の年平均は 92.7 で、対前年比 35.4%低下しました（表 7）。

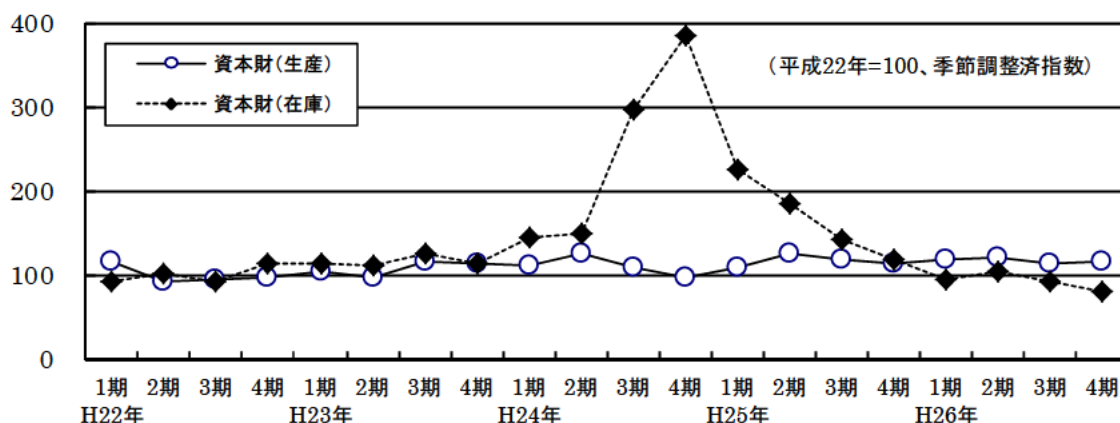
1-1-1 資本財

平成 26 年の資本財の生産指数は 117.4 で、対前年比 0.3%上昇しました（表 5）。

四半期別にみると、1 期 119.3（対前期比 4.9%増）、2 期 120.9（同 1.3%増）、3 期 113.9（同 5.8%減）、4 期 115.1（同 1.1%増）となりました（表 9）。

また、在庫指数の年平均は 91.8 で、対前年比 45.2%低下しました（表 7）。

四半期別にみると、1 期 94.5（対前期比 20.6%減）、2 期 104.6（同 10.7%増）、3 期 92.6（同 11.5%減）、4 期 79.5（同 14.1%減）となりました（表 11）。



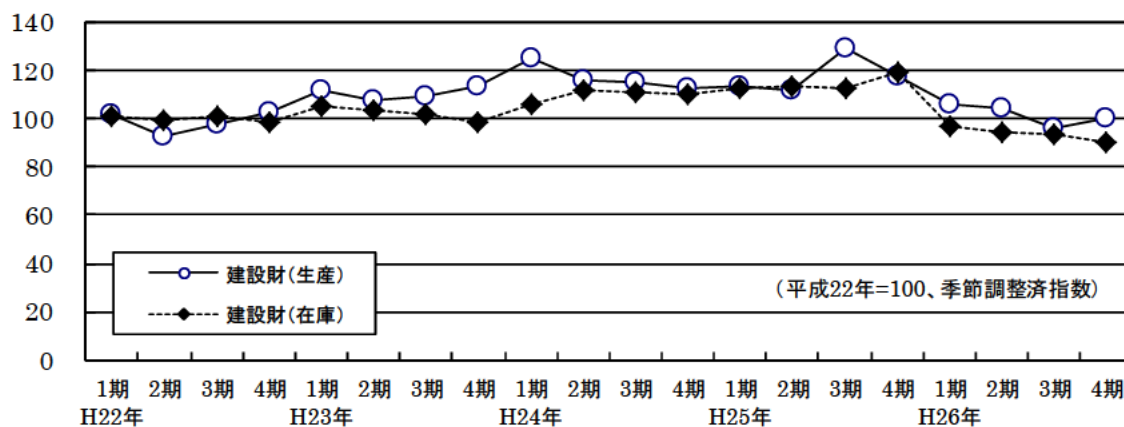
1-1-2 建設財

平成 26 年の建設財の生産指数は 100.1 で、対前年比 16.0%低下しました（表 5）。

四半期別にみると、1 期 106.1（対前期比 9.9%減）、2 期 104.4（同 1.6%減）、3 期 95.7（同 8.3%減）、4 期 100.5（同 5.0%増）となりました（表 9）。

また、在庫指数の年平均は 93.8 で、対前年比 18.1%低下しました（表 7）。

四半期別にみると、1 期 96.5（対前期比 19.3%減）、2 期 94.7（同 1.9%減）、3 期 93.3（同 1.5%減）、4 期 90.4（同 3.1%減）となりました（表 11）。



1-2 消費財

平成 26 年の消費財の生産指数は 102.6 で、対前年比 1.9%低下しました（表 5）。

また、在庫指数の年平均は 130.4 で、対前年比 34.3%上昇しました（表 7）。

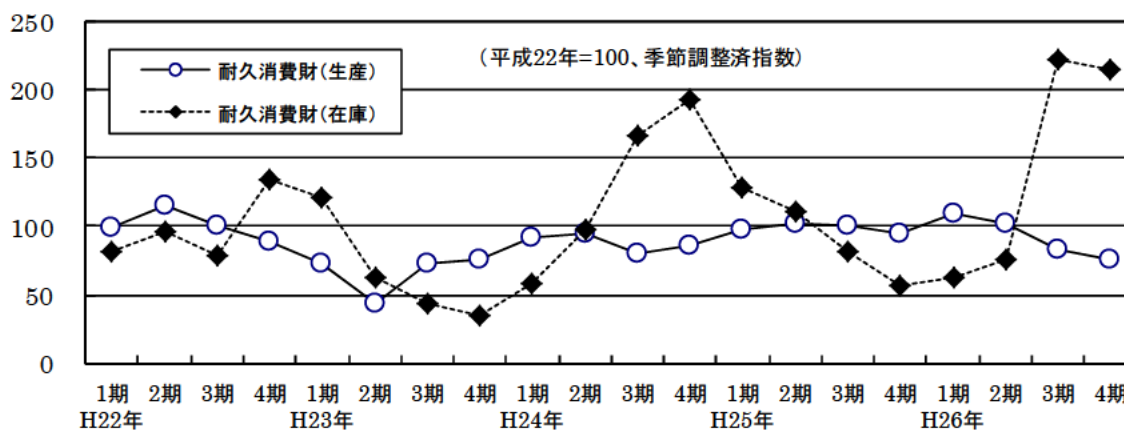
1-2-1 耐久消費財

平成 26 年の耐久消費財の生産指数は 92.1 で、対前年比 6.3%低下しました（表 5）。

四半期別にみると、1 期 109.3（対前期比 15.8%増）、2 期 101.8（同 6.9%減）、3 期 82.6（同 18.9%減）、4 期 75.3（同 8.8%減）となりました（表 9）。

また、在庫指数の年平均は 150.0 で、対前年比 62.2%上昇しました（表 7）。

四半期別にみると、1 期 62.1（対前期比 9.9%増）、2 期 75.1（同 20.9%増）、3 期 222.5（同 196.3%増）、4 期 215.0（同 3.4%減）となりました（表 11）。



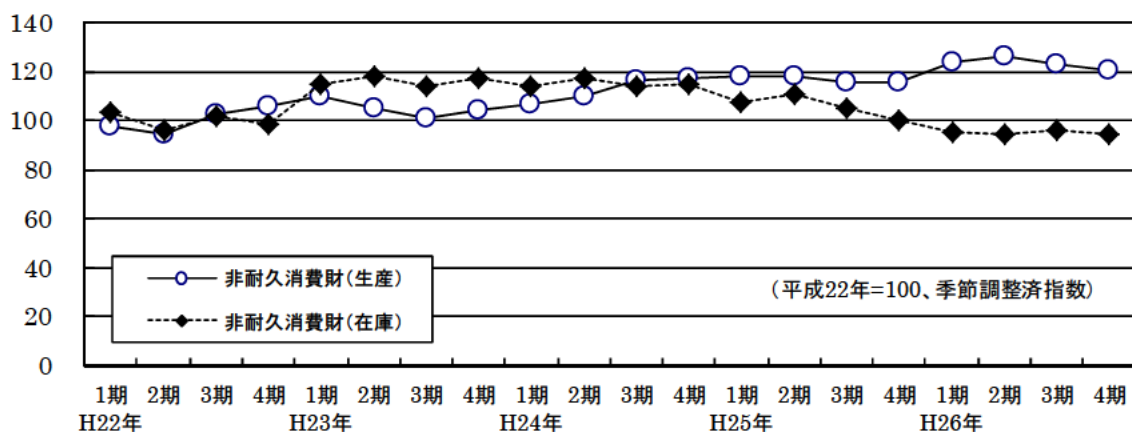
1-2-2 非耐久消費財

平成 26 年の非耐久消費財の生産指数は 123.2 で、対前年比 5.3%上昇しました（表 5）。

四半期別にみると、1 期 123.4（対前期比 6.9%増）、2 期 126.3（同 2.4%増）、3 期 122.9（同 2.7%減）、4 期 120.7（同 1.8%減）となりました（表 9）。

また、在庫指数の年平均は 95.0 で、対前年比 9.9%低下しました（表 7）。

四半期別にみると、1 期 94.9（対前期比 4.8%減）、2 期 94.3（同 0.6%減）、3 期 96.2（同 2.0%増）、4 期 94.6（同 1.7%減）となりました（表 11）。



2 生産財

平成 26 年の生産財の生産指数は 138.9 で、対前年比 17.8%上昇しました（表 5）。

また、在庫指数の年平均は 117.0 で、対前年比 4.2%上昇しました（表 7）。

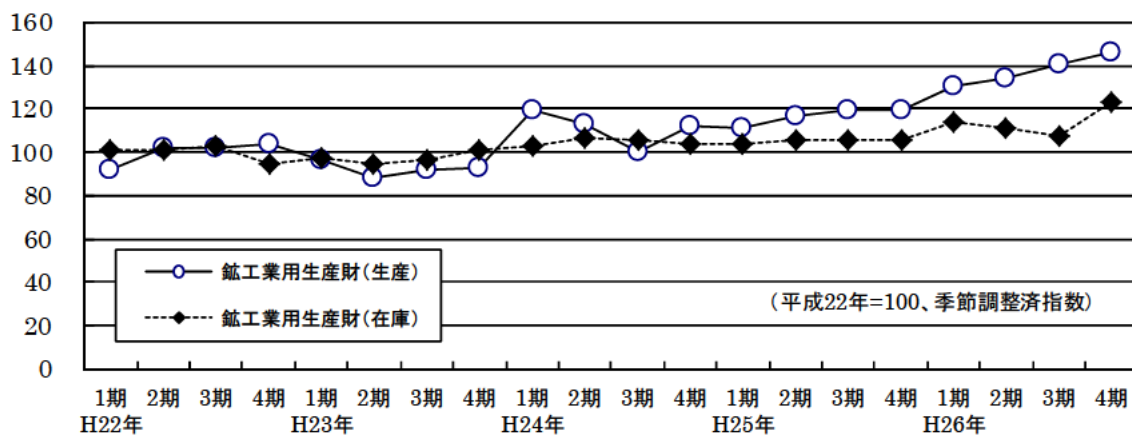
2-1 鉱工業用生産財

平成 26 年の鉱工業用生産財の生産指数は 137.9 で、対前年比 18.4%上昇しました（表 5）。

四半期別にみると、1 期 130.5（対前期比 9.2%増）、2 期 134.4（同 3.0%増）、3 期 140.8（同 4.8%増）、4 期 146.0（同 3.7%増）となりました（表 9）。

また、在庫指数の年平均は 113.7 で、対前年比 8.0%上昇しました（表 7）。

四半期別にみると、1 期 113.8（対前期比 7.8%増）、2 期 111.1（同 2.4%減）、3 期 107.5（同 3.2%減）、4 期 122.7（同 14.1%増）となりました（表 11）。



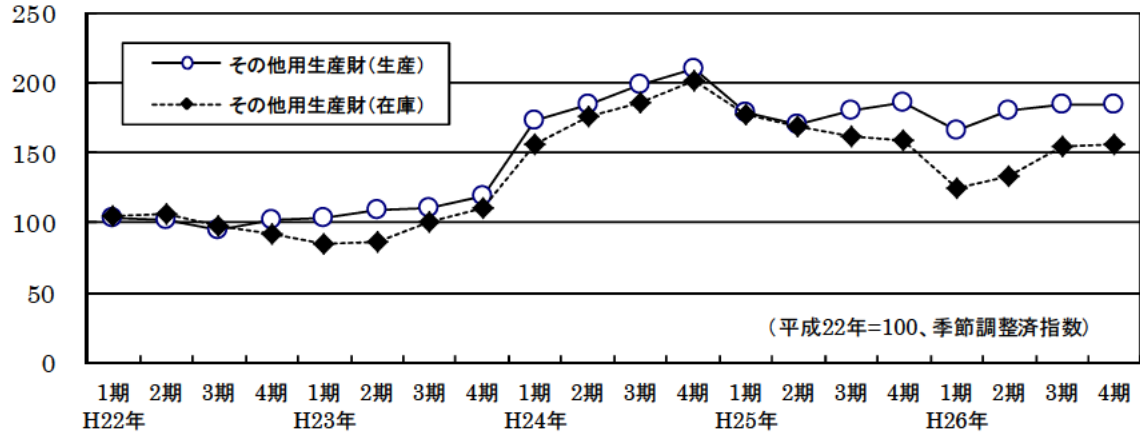
2-2 その他用生産財

平成 26 年のその他用生産財の生産指数は 179.1 で、対前年比 0.2% 上昇しました（表 5）。

四半期別にみると、1 期 166.7（対前期比 10.5% 減）、2 期 180.9（同 8.5% 増）、3 期 184.6（同 2.0% 増）、4 期 185.2（同 0.3% 増）となりました（表 9）。

また、在庫指数の年平均は 142.3 で、対前年比 14.6% 低下しました（表 7）。

四半期別にみると、1 期 125.2（対前期比 21.0% 減）、2 期 132.7（同 6.0% 増）、3 期 155.1（同 16.9% 増）、4 期 156.1（同 0.6% 増）となりました（表 11）。



「季節調整」 とは？

指数には「原指数」と「季節調整済指数」の2種類がある事にお気づきでしょうか？

例年、年末年始のある12月、1月、ゴールデンウィークのある4、5月、お盆休みのある8月は勤務日数が少ない為、生産活動が低下するといわれていますが、本当にそれを生産水準の低下と考えて良いのでしょうか？

鉱工業の生産は、季節的な要因や社会的慣習等により1年を周期として変動するので、前月や前四半期との比較を行なう場合には、そのような季節要因をとり除く必要があります。

これを「季節調整」といいます。